

務所ニ於テ羽田支店長ト會見シ池ヨリ日本本社ニ於テ三橋
 専務ト會見シタルニ中元トシテ全負ニ對シ三百圓ヲ支給ス
 ルコトニナリタルヲ以テ今方シテ奮發サレタレト懇談シ同
 支店長ヨリ然ラバ同支店トシテ二百圓支給スルヲ以テ之ニ
 テ解決サレタレト述べタルニ池ハ一人宛八十円トナルヲ以
 テ一應考慮スベシト退出シ約二十分ノ後再會シ一同ニ語リ
 タルガ纏ラザルヲ以テ明日更ニ會見ヲ願ヒ度シト述べテ退
 出セリ

七月十一日午後二時前記組合側代表ニ名ハ丸ノ内郵船ビル
 内本社ニ於テ三橋専務及羽田飯田支店長ト會見シ池ヨリ
 最後の私案ナルガ各人ニ金百圓宛計二千圓ヲ是非共支給サ
 レタレト提案シ種々折衝ノ結果同五十五分ニ至リ妥協成立
 スルニ至リ別記覺書ノ條件ニテ圓滿解決シ翌十二日飯田支
 店長ニ於テ覺書ノ交換並金銭ノ交換ヲ了セリ
 右及申(通) 報候也

列記

嘆 額 書

大正八年十月一日ヲ以テ生聲ヲ挙ゲテ當飯田町駐在所荷物配達部ニ會
 ル七月十四日ヲ以テ解散スルコト決定致シマレタ其ノ間實ニ滿十の
 愧 轉切ナルモノカアリマス此ノ日ヲ以テ我等配達部員ハ長キハ創立以來短カ
 キモ六七ノ歳月ヲ閉シテ居マレタ其ノ勤績年限ヲ平均スレバ約十年
 トナルノテアリマス其ノ長日月ノ間及々トシテ勤勞シテ吾等が案案上ニ
 躍リ出ルノニ實ニ僅カニ旬日ノ後ニ迫ラテ居ルノテアリマス其ノ案案上ニ
 不景氣ニ端ガ時代ニ就職シテ居ルノハ蓋シ至難ナ事ヲアツマス少ク
 モ半年ノ余裕ヲ必要トシテ居ルモノハ蓋シ至難ナ事ヲアツマス少ク
 ナ程デアリマス故ニ我等ハ世間ノ実績ニ照シテ解散ノ際ニ其ノ案案上ニ
 ル手當トシテ如キモノヲ考慮セラレン事ヲ懇願スルノテアリマス
 一解散ト同時ニ失業スルモノニ對スル手當
 二解散ト同時ニ失業スルモノニ對スル手當
 三解散ト同時ニ失業スルモノニ對スル手當
 四解散ト同時ニ失業スルモノニ對スル手當
 五解散ト同時ニ失業スルモノニ對スル手當
 六解散ト同時ニ失業スルモノニ對スル手當
 七解散ト同時ニ失業スルモノニ對スル手當
 八解散ト同時ニ失業スルモノニ對スル手當
 九解散ト同時ニ失業スルモノニ對スル手當
 十解散ト同時ニ失業スルモノニ對スル手當
 昭和八年五月二十二日

東京合同運送株式會社
 飯田支店 羽田支店 飯田支店
 齋藤 元次 印
 外十九名